

1. 開会 進行：青田生涯学習課係長
2. あいさつ 西本教育長
3. 委嘱状交付 机上交付
4. 委員自己紹介 各委員及び事務局
5. 委員長・副委員長の選出について
・井上委員を委員長、山本委員を副委員長に選出。
6. 報告
三木市教育の基本方針について } 近藤生涯学習課長より説明（6分間）
7. 議事
平成30年度社会教育施策の推進について } 各課長、館長、所長より説明（27分間）

【質疑応答】

(井上委員長)

- ・では、「平成30年度社会教育施策の推進について」、質問等ある方は挙手にてお願いいたします。

(國井委員)

- ・資料3ページ、1番目の「生涯学習の推進に関すること」で、親子のふれあいの場を提供するということで、今、土日にコミセンでも9時から10時まで小・中学生への無料開放をやっていると思うが、利用者が少ないように思う。これについて、認識はしているのか。

(近藤生涯学習課長)

- ・ふれあい事業については、家庭教育学級であるとか、乳幼児教育学級があるが、開放の方は公民館によって差がある。町の方の公民館では、子どもがいっぱいになるくらい来ているが、農村部では低調であることは認識している。

(國井委員)

- ・ありがとうございました。

(井上委員長)

- ・無料開放ということで、ボランティアの方を積極的にお願いして、遊びを教えるような

ことはされているのか。ただ公民館だけを無料開放しているだけなのか。

(河端生涯学習課主幹)

- ・開放は親子で使っていただくというのが趣旨ではじまっているので、原則として大人だけ、子どもだけというのではなく、親子で来てくださいというPRをして使っていただいている。

(井上委員長)

- ・無料開放で、親子で来て遊んでくださいだけではなく、例えば地域の高齢者の方にいろいろな昔遊びを公民館で指導してもらおうとか、何か取組んだらもう少し人も集まりやすいと思う。

(西田委員)

- ・資料19ページの方に書かれている青少年補導員を私も10年ほどやったが、その活動は非常に活発であると思っている。夜のパトロールは午後8時頃から30分から1時間をかけてやっているが、しんどい歩き方の人もふえてきて、高齢化が進んでいる。若い世代の方に頼むのは難しいところもあるので、今後はこういった部分にも目を向けていく必要がある。
- ・私は、人の目の垣根隊の活動もしているが、先日も1年生が熱中症で倒れた時に、先生方が何かと気を配ってくれた。しかしながら、先生方に頼りきりにも無理があるし、垣根隊も高齢化が進んでだんだんと人数が減ってきているのが現状である。ことが起きてからでは遅いので、地域の保護者も含めて地域で子どもを見守ることが大事なので、教育委員会を通じてどうしたら良いのかという事を検討していただく必要があると思う。
- ・文化・スポーツ課の関係で、私は菊花展の方、菊を10年ほど前から教えてもらってやっているが、三木の菊花協会のデータを見ると、20年ぐらい前に比べて菊花展に出品する人が激減している。このままいくと菊花展の存続も危ぶまれると心配しているので、教育委員会を通じて、今後どうするのかを検討していただきたい。
- ・青山地区で心配しているのは、公民館の運用のことで、現在のところ、まちづくり協議会を通して良いまちになっているが、来年以降、教育委員会と市民協働課の業務の割り振りの関係で、それがどのように変わっていくのかをお聞かせいただきたい。

(小田市民協働課長)

- ・公民館については、昨年度までは市長部局の市民協働課で補助執行という形で所管していたが、今年度からは、本来の社会教育施設としての位置付けから、教育委員会の生涯学習課に所管がもどっている。
 - ・公民館長及びまちづくり担当職員も所属は生涯学習課ということで、教育委員会の所管となっているが、地域の住民の皆さんが、今までやってきたことを急にごろっと変えるような形にならないように、生涯学習課と市民協働課の方で調整しながら、あれができなくなった、これができなくなったと急に変わることがないように、心がけながら事業を進めていく。

(近藤生涯学習課長)

- ・公民館は社会教育施設であり教育委員会の所管であったものが、これまで市長部局に所

管が移っていたため、教育委員会事務局が直接、公民館の指揮監督等をするのに若干の弊害が生じていたということも事実である。

- ・教育委員会は、学校教育や社会体育、文化・芸術などのノウハウを持った組織なので、公民館の所管を教育委員会に変えることによって、関係機関との連携もスムーズになり、より一層の社会教育活動の充実を図ることができるため、今年度から教育委員会に所管をもどすことになった。したがって、急激にこれまでの事業の進め方が変わるといったご心配はしていただく必要はないと思う。

(西本教育長)

- ・まちづくりの視点で現在それぞれの委員会が働きかけているが、今後3年間で、各地区の実状に応じ住民主体でやることと、行政主体でやることの仕分けを進めていければと考えている。
- ・現在の問題点として、立ち上げには市の協力を必要としたが、徐々に住民の自主性に任せ行政は手を引いていく予定であったことまで、まだ行政が負担しているといったことが挙げられます。具体的には資料作りや会計処理といったことまで全て市の職員がしていたという事実がありますが、それが本当に必要な業務なのか整理をし始めております。
- ・また、正職員が不足しているという事実もあるが、これまでの経験や知識を活かして活躍していただくといった視点で、現在公民館10館のうち5館に市役所や教職員のOBの方々を配備させていただいております。経験のある再任用職員に活躍してもらおうようにしていることを合わせて報告させていただきます。

(井上委員長)

- ・高齢者大学へ一定の投資を行なっていると思うが、それであれば高齢者大学で学んだ方々には、学んだ知識を地域で還元してほしいという声がある。入学時の時点で、何か将来地域に還元するという決まりごと（制約）はあるのか、また卒業時に地域へ還元することを勧めているのかという点についてお伺いしたい。

(近藤生涯学習課長)

- ・卒業された後、必ずボランティアに参加する、あるいは老人会に入会するといった制約を決めていた時期もあるが、そうすると高齢者大学への入学希望者が減少してしまうため、現在はそういった決まりは作らずにハードルを低くして、希望者に学んでいただくということに重点を置いている。

(西本教育長)

- ・補足ですが、過去には制約をきつくしていた時期もありましたが明らかに入学者数は減りました。今年も定員を10名減らしております。大学院入学希望者数も減ってきている。
- ・自分の感触として、入学式の顔ぶれを見ていると、入学者の中にはすでに地域で活躍されている方も多く、学んだことを更に生かしてこれからも活躍されるのではないかと期待している。

(井上委員長)

- ・引き続き、地域に入る重要性を伝えていただけたらと思う。

- ・三木市全体におけるボーイスカウトの数が一桁になってしまっていると伺っているが、どのように認識されているか。

(大東教育センター所長)

- ・ボーイスカウト2団体、ガールスカウト2団体の合計4団体が活動に参加していたが、一部高齢化のため活動を停止しており、現在ボーイスカウト2団体、ガールスカウト1団体となっている。

(井上委員長)

- ・三木市全体で縮小化しているため、支部活動ができないという話も聞く。
- ・ボーイスカウトというのは、組織の中で多くのことを学ぶチャンスのものであり、支援していきたい。青少年活動の一貫として行政の支援が可能か考えていただけたらと思う。

(井上委員長)

- ・他に何かございますでしょうか。

(石田委員)

- ・資料の「三木市教育の基本方針」の8ページで、「学校の業務改善の推進」に記載されていることに関して、今現在具体的に行われていることはありますか。それとも計画の段階でしょうか。

(奥村教育振興部長)

- ・学校の業務改善の推進といった取り組みはもう10年程度続けてきている。
- ・教職員が子供たちとじっくり向き合う時間をもっと増やしていく必要があると考えるが、実際は採点業務や学級通信の作成、とりわけ市の教育委員会からの調査物にかなりの時間を取られてしまっている。また、市や国から二重に似たような内容の調査物の提出を求められることもかなりの負担となっている。こういったことを踏まえ、できる限り教職員が児童と向き合える時間を作るよう、業務の改善を目指している。
- ・同時に、部活動や長時間に及ぶ職員会議といった業務内容の見直しについても始めている。
- ・地域の人材及び外部人材の活用という点に関しては、例えば苗の育て方、米の育て方を指導していただいている。また、部活動のサポート、自然教室のサポートなどもいただいている。また、月に1～2回、朝の時間帯の読み聞かせを行なっていただいている。
- ・これからも子供の育ちを地域で見守り、支援をしていただけるよう継続していきたい。
- ・ノー残業デーに関しても、各学校の職員で曜日を決めて声を掛け合い、週1日程度は努めて早く帰る日を作っている。ノー会議デーも設けている。
- ・部活動に関しても土日のどちらかを休みにする、平日に休みの日を作るなど生徒の精神面や体力面に配慮した設定としている。
- ・今年から夏休みの8月13日、14日、15日を完全に学校閉鎖として職員及び生徒を完全に休ませるといった試みも始められた。

(石田委員)

- ・それらは各学校に任せているのか、それとも三木市としての取り組みなのか。

(奥村教育振興部長)

- ・県の職員会議から始まり、市町村で広まっていき、現在では全国的に行われるようになってきたという経緯である。

(石田委員)

- ・市の方針に基づき、学校が現実的に動いてきていると解釈して良いのか。

(奥村教育振興部長)

- ・はい、その認識で結構です。

(井上委員長)

- ・地域まちづくり交付金に関し、県の事業で「心豊かなまちづくり 北播磨連絡協議会」というのがあり、そこへ毎年 600 万の補助金がおりている。三木からも去年は 2 団体が申請をしていた。支援が可能なことや補助金があるということについて、広く市民に PR されているのか。

(小田市民協働課長)

- ・市民協働課で管理している市民活支援金等は PR 可能だが、県や国の補助金の仕組みについては色んな市民活動団体に効果的に PR することはできていない。
- ・ひとつの原因として市民活動の活動内容をこちらが全部は把握できていないといった実情がある。改善策として、来月各部署の課長を集めてどういった支援ができるか検討する会議を行う。その中で各所管分野の支援金の情報を市民協働課が把握し、市民活動団体へ広く PR していきたいと考えている。

(井上委員長)

- ・ぜひ、進めていただきたい。自分が支援を受けたいと思った時にどこに行ったら良いのかわからないという市民団体もある。市全体として様々な市民団体の活動をサポートできると良い。

(井上委員長)

- ・最後に、学校教育の方から地域に対する要望など、富田先生何かございますでしょうか。

(富田委員)

- ・地域の活動に生徒たちをできるだけ参加させられるような機会を増やしていただければと思う。中学生になると部活動に時間を取られ、地域の活動に参加する機会が減ってしまう。先ほどあったように部活動の適正な制限などの試みにより、地域の活動への参加を促し、自分も地域の担い手であるのだという自覚を持ってもらえたらと思う。公民館の活動にも積極的に参加していけるようになればと思う。

(井上委員長)

- ・地域の方から学校に「こういうイベントがある」と働きかけてもらうことで多くの学校の参加が期待できると考える。

(今枝委員)

- ・地域に根ざした学校作りを目指しているし、地域も学校に対する思いは強いと実感している。老人クラブへの参加など学校では学べないことを学べる良い機会となっている。花火大会や敬老会など声をかけていただくと、学校側としても参加しやすくなる。今後

社会に出て活躍したのち、いずれは地域に戻ってきてくれたらといった子供達へのメッセージもありがたいなと感じている。

(井上委員長)

- ・社会教育委員の活動において、学校を核とした地域づくりやまちづくり活動が大きな目標となっている。声をかけてもらったことに対し、真摯な態度で対応していくことで、今後つながりを大事にしていけたらと思う。

(黒田委員)

- ・吉川の事例になるが、認定こども園の運営に関して、新聞記事に記載されていることを保護者が全部鵜呑みにして、不安が強くなっており、子どもにも影響が出ている。各学校が保護者に対し、必要な説明を行っていく必要があると感じる。
- ・若い保護者が不安にならないよう配慮いただければと思う。

(奥村教育振興部長)

- ・総合教育会議にて、今後の三木市の学校のあり方についての方向性は出したが、今後は保護者や地域の方々の意見を聞いていく必要がある。8つの中学校区に地域部会を作り、その中で保護者、PTA、地域の声を聞いて検討委員会でまとめ、再度総合教育会議で再検討するといった検討を繰り返して進めていきたい。まだ地域の方々への説明は不十分であるが、今後説明を行い活動を進めていく予定である。
- ・認定こども園の運営に関し、現在も見直しを行っているが保護者の声に耳を傾けてより良いものにしていきたいと思う。

8. その他

東・北播磨地区、県・近畿・全国社会教育委員協議会関係予定 } 青田生涯学習課係長より説明
(6分間)

9. 閉会

あいさつ 山本副委員長

～午後 3 時 30 分終了～

記録者 青田生涯学習課係長